

ヨコスカ・ネイビー・パーカー 街を再発見

コンペ最優秀賞、中大女子学生の挑戦

神奈川県横須賀市で女子学生6人(当時高校生)が考案したウェア「ヨコスカ・ネイビー・パーカー」が注目の的だ。同パーカーによる「街おこし」を提唱して、「横須賀学生政策コンペ」(主催・学生団体スカペンコ)で最優秀賞を昨年2月に受賞した。6人のうち2人が中央大学の学生だ。

左から平賀桃子さん、川合碧さん、西田夏名葉さん、八村美璃さん、下井田春佳さん、村地奈緒さん



中大法学部2年の八村美璃さん、理工学部2年の下井田春佳さん。2人はツイッター(短文投稿サイト)の話になると、またしてもワクワクする。

「パーカー、カッコいい」

横須賀市内の回転すし店で。食事の学生がつぶやく。「隣の席のおじさん、ヨコスカ・ネイビー・パーカー、着ている。カッコいいぞ」

別の発信では「パーカー着ていたら、ポテトが大盛りになったよ!」間髪入れずに、さらに別のつぶやきでは「ワンドリンク付きの店、知ってるよ。パーカー着ていればね」

飲食のほか市内の清掃やイベント開催などでの着用も多い。横須賀市の名所や歴史をデザインしたヨコスカ・ネイビー・パーカーが街おこしや共通認識の高まりに一役買っている。

「学生政策コンペ」で横須賀再発見を訴えたのが、中大生2人を含む6人。県立横須賀高の同級生だ。同コンペの目的の一つに、こうあった。「学生が横須賀の街の現状に対して認識を深め、自分たちでその対応策を練る」



同パーカーでは、「NAVY=海軍」「M40=明治40年に市政施行、横浜市に次いで県内2番目」に加えて、カモメや船のいかり、三浦半島をアピールしている。

米国で、学生が在籍する大学名入りのウェアを着るように、市民が地元プロチームのTシャツを着るように、自らの気持ちを表す。ヨコスカパーカーもそうした意味合いだったが、洗練されたデザインであるがゆえに、当初はファッション性が先行して、彼女らのポリシーがうまく伝わらなかった。

「住んでること、誇りに」

高校3年の冬、メンバーとなる6人は指定校推薦入学などで進路が決まった。

大学入学までの約3カ月、一般入試の生徒は受験勉強中だ。私たちは何をやる? 自動車運転免許を取る、アルバイトをする、旅行にも行きたい…。幾つかの選択肢があがるなか、政策コンペを知った。

最優秀賞は、横須賀市長へ自分たちの政策をプレゼンテーションできるという「やりがい」もあった。

リーダーの八村さんが、街を再発見しようと言い出した。同市で生まれ、中学1年で川崎市へ引っ越した。高校入学のころに戻ってきて、横須賀に新たな魅力を感じていた。

軍港めぐり、海軍カレー、ヨコスカネイビーバーガーと観光名所・旧跡やグルメは数多いとはいえ、それだけではないはず。ネイビーバーガー、バーガー…ネイビーパーカー、パーカーく!?!。「ダジャレですが、



ピンとくるものがあった。パーカーを着て、横須賀に住んでいることを誇りに思いたい」

高校生6人の奮闘が始まった。デザインは芸術系大学に進学する、別の友人と一緒に考えた。県内有数の商店街「どぶ板通り」の各店を回って割引や特典などの協力を要請。

お金にからむことが増えてきた。八村さんによると「6人中ただひとり理科系」の下井田さんが会計や在庫管理までを担当した。女子高校生のひたむきな努力は賛同者を徐々に増やしていった。

「商標登録」の壁が…

彼女らの考え方が浸透し、コンペで披露する試作品もできあがった。「イイね」が相次ぎ、プレゼンの趣旨通り、発売(150着限定)を決めた。

ここで「商標登録」問題が起こった。6人は立ち往生した。『NAVY』は1994年12月に都内のある会社が登録済みだった。現状では使えないデザイン、と分かった。準備資金は相当額にまで達している。

「正直に話そうよ」とメンバーで決めた。懇願のすえ、当該の会社は限定数の条件付きで販売を許可してくれた。

沸き立つ6人。政策コンペ(昨年2月8日)に間に合った。参加5チーム、高校生・大学生15人が自慢のアイデアを発表したなかで、頂点に立った。公式プレゼンはこうだった。

「市民の盛り上がりを創る」ことをテーマとし、ヨコスカのファッションブランド確立のため、第1弾として「ヨコスカ・ネイビー・パーカー」を発売します。

翌月4日には市役所に吉田雄人市長を訪ね、堂々たるプレゼンを展開した。

話題が話題を呼び、テレビ局の取材を受けた。第1弾の150着は既に

完売。番組の影響も重なって、追加販売を求める声が大きくなった。ようやく昨年12月中旬、300着を発売した。

商標登録問題では大人社会を勉強した。販売は慎重にしなければいけないと、専用サイト上の先行予約とした。現在は活動を一区切りしている。

横須賀といえば、スカジャンの名で知られるジャンパーが有名だ。背中一面の色鮮やかな刺繍が独創的。スカジャンの店主から「若い子が作ったカッコいいものなら、年上の人たちにもきょうけるよ」とお褒めの言葉をもらった。「その通りになりました」と八村さんが驚いた。「追加販売のとき、お客さまは年配の人が多かったです」

実践的な勉強、手応え

パーカーは若者の域にとどまらず、街の一員となり、各所で着用する姿が散見できる。

肩の荷を下ろしたように下井田さんが話した。「実践的な勉強をしました」。6人はそれぞれの大学に昨春入学した後、その日の活動報告を深夜、無料通話「スカイプ」を利用して行った。1年間の活動を「本気で取り組み、周りが支えてくれる」とは6人の経験談。

八村さんは言う。「プロデュースするのが好きになりました。中大をもっともっと元気にしたい。もっと良くみせたい」。新たなテーマを見つけて、張り切っている。

電子書籍アプリ『白門書房』

『白門書房』は、中央大学が発行する広報誌を集めた、電子書籍配信アプリです。

『HAKUMON Chuo』のバックナンバーはもちろん、これまで印刷物のみで配布していた中央大学の大学案内誌や学部ガイドブック、大学院・専門職大学院案内、附属学校案内などを、電子ブックの形式でダウンロードできます。

利用方法は簡単。iOSの場合はApple Inc. が運営するApp Store(アップストア)から、Androidの場合はGoogle Inc. が運営するGoogle Playから無料でダウンロードできます。App StoreおよびGoogle Playへは、無線LAN(Wi-Fi)を通じてどこからでもダウンロードできます。

『白門書房』ダウンロード後は、インターネットへの接続環境がなくても、電子ブックを開くことができます。

過去のバックナンバーや他の媒体を読みたい場合は、4GやWi-Fiを通じて何冊でもダウンロード

可能です。

本電子書籍・ドキュメント配信システムは、2016年3月現在、99冊の大学広報誌を用意しており、今後も、新刊本発刊次第、順次電子ブックで提供する予定です。

『白門書房』アプリについての詳細は、以下のサイトよりご覧いただけます。

【iOS版】

<http://itunes.apple.com/jp/app/id413465097>

【Android版】

<https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.documentcontainer.web>

※Android4.0未満の機種ではご覧いただけませんので、ご注意ください。

iOS版ニューススタンド(2015年リリース)

※定期刊行物である『HAKUMON Chuo』、『中央大学の近況』についてのみ、こちらでご覧いただけます。